

## Oulun Suomalaisen Yhteiskoulun Lukio 訪問

関東第一高等学校 教務部長 二戸 美香

### 1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、研修3日目となる2025年9月9日の午後、視察先であるオウルン・スオマライネン・イテイスクル高等学校（以降 OSYK）を訪問した。オウル市の中心部に位置する歴史のある校舎で生徒600名が学んでいるとのことであった。フィンランドの義務教育期間で最後となる高等学校の視察であったため、生徒たちの進路の様子などに関心が寄せられていた。



校内での集合写真

### 2 学校（施設）概要

国内外での学校間交流を活発に行い、各種プロジェクトに積極的に参加することを目的とするユネスコスクールネットワーク（ASPnet）に加盟し、生涯学習を意識した総合高校である。在籍生徒数は600名であるが、訪問時は多くの生徒の姿を目にする時間帯ではなかったため、ゆったりとした空気が流れているように感じた。外国語（英語）の教員である Eveliina 先生より学校の概要を伺った。OSYK はコミュニティーに近い学校を目指しており、芸術教育に力を入れている。フィンランドでは教育が大学院まで無償で、後述する通り、テストなどで競い合うという思いは希薄である。そのため学校選びの基準は原則「住まいの近く」となりがちだという話を前日までに聞いてはいたが、OSYK は人気校とのこと、希望者が全員入学できない場合もあるようであった。倍率は年によって異なるが、強く入学を希望する生徒は複数回エントリーを試みること。

国の示すコアカリキュラムと学校独自のカリキュラムを合わせて多様なコース設定が行われている。独自カリキュラムの中に芸術やシアターの授業があり、6週間1ピリオドで教科の切り替えが行われる。国際色豊かで、英語については英文学も学び、ドイツ語についてはドイツの大学への進学資格を得ることができる。

### 3 教育環境

OSYK は幅広い芸術教育を重視しているため、芸術に特化した進学を目指す生徒に最適な高校である。

#### (1) 学校の印象

アールヌーボー様式で建てられたという校舎の外観から芸術性を感じることができた。歴史のある建物を、学びの場として丁寧に美しく利用しているという印象を受けた。また Eveliina 先生がプレゼンテーションをしてくださった教室は、普段は歴史の授業で使用する教室とのことで、プロジェクター等の ICT 教育に対応した設備が本来の建物の雰囲気を壊さないように整備されていた。

#### (2) 生徒たちの様子

先に述べた通り、我々の訪問時間帯にはそれほど多くの生徒とは出会えなかったが、文学の教室と演劇の教室を見学することができた。文学の授業では課題となる読み物を校内のどこで読んでも良いというルールに驚かされた。机に向かってでも、ソファでも、教室外でも。また演劇の授業では、一見指導する教員の姿が見当たらなかったが、生徒が自主的に作品作りを行っていた。

校内見学の際に学校の歴史が話題に上り、偶然近くにいた生徒が答えてくれる場面があった。Eveliina 先生曰く、探究活動のような調べ学習の授業の成果ということである。



文学の教室

### 4 トピックス

#### (1) 脱デジタル化

今回の研修で注目すべき視察内容の一つである。フィンランドの高校ではコスト面の理由からデジタル教科書を使用している。しかしながら、OSYK では 2025 年 8 月 1 日から原則スマートフォン禁止となった。禁止の経緯としては、授業中のメールやゲームが多すぎたため。意外なことに、生徒・保護者からはそれほどの反発はなかった。デジタル機器が必要な場面では貸与されているラップトップを利用している。



掲示板でメッセージのやり取り

#### (2) 学校行事

日本でいう体育祭のようなものはないが、学校行事としてダンスコース・演劇コースなどの生徒が作り上げるミュージカルが年 2 回催される。

### (3) ウェルビーイング

「OSYK ソックス」というイベント。靴下を編む活動で家族・地域と関わる。

【Instagram #osyksukka】

## 5 おわりに

長く注目されているフィンランドの教育で、特にデジタル化は日本をはじめ多くの国がモデルとしてきたものである。そのフィンランドで脱デジタル化の動きが始まっているという事実には、驚きがありつつも、やはりデジタルでは代えられないものがあるのだという若干の安心感も得た。

また、私自身の勤務校では行事が盛んであるため、研修前からフィンランドの学校行事に興味を持っていた。内容は当然異なるが、フィンランドでも生徒の活動成果を発表するような場面があり、さらに、OSYK ソックスのようなユニークなイベントについて知ることができた。本校でも、より家庭や地域社会との関わりに目を向けた活動ができればよいと思う。

研修全体で強く印象に残ったことは、学校現場で競争や実績にあまり重きを置かないという教育スタイルである。例えば日本で高校を受験する生徒は、その学校の学力レベルや大学合格実績を学校選びの要素とするものだが、今回どの学校の先生方もテストで競争させることや、生徒の進路に関する詳しい数字（進学率など）には注目しておらず、また、そのような情報で学校を選んでほしいとも思っていない様子であった。自身の生き方を選択する際の基準が日本の感覚とは異なるのであろうと思い、それがウェルビーイングにつながっているのだとすれば、私たちも価値判断の基準を見直す時期なのかもしれないと感じた。

参考：学校 HP <https://www.ouka.fi/osyk>